

「目が離せない中国のスクラップ輸出」(その2)

目 次

1. 2017年6月の鉄スクラップ輸出	
(1) 輸血量全体	1
(2) 輸出品種	1
(3) 輸出向け先	2
2. 香港の輸出入	2
3. 6月の日本、中国、香港の輸出入バランス	
(1) 6月及び1-6月の日本のスクラップ輸出	4
(2) 3国間の6月の輸出入バランス	5
4. 6月の中国ビレット輸出	6
5. 韓国の状況	6
6. ベトナムの輸出入	7

2017年8月3日

㈱鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

6月の鉄スクラップ輸出量は20万tに拡大した。前月8万tに比べ2.5倍増である。向先は5月の13カ国から17カ国へ増加し、切削・打ち抜きくずよりも「その他くず」が約4倍増している。日本の主要マーケットである韓国向けに対しては、1万2,500t（5月は2,140t）のその他くずが入着しており、日本の輸出抑制要因や相場下げ要素の可能性も出てこよう。一方、14年央から急増したビレット輸出は16年央より減少に転じており、17年6月は推定48万tと急増前の低レベルに戻った。

1. 2017年6月の鉄スクラップ輸出

(1) 輸出量全体

6月の輸出量は20万1,700tとなった（中国「海関統計」7204類計）。輸入は18万5,271tなので初の輸出超過である。中国の輸出量は前号で述べたように、年間1000t程度で推移していたが、17年3月より増加に転じ、3月0.7万t、4月1.5万t、5月8万t、6月は更に20.2万tに拡大した。背景に17年6月末「地条鋼」廃止によるスクラップ需給の緩みがあると推察される。今後は政府の国内消費増奨励や価格の上昇で、更なる輸出の増加は考えにくいだが、相場次第では20万tを超える可能性もある。

中国スクラップ輸出量						単位トン
	鉄のくず	合金鋼くず	すずメッキ屑	切削・打ち抜きくず	その他くず	合計
17.1		35		24	8	67
2		0		0	0	0
3		53		67	533	653
4		0		8,994	6,366	15,360
5	95	35		43,897	36,316	80,343
6	212	192	2,518	59,692	139,067	201,681

データ: 中国「海関統計」(日本鉄鋼連盟)

(2) 輸出品種

HSコード別に輸出品種を分析すると、5月時点では「その他くず」よりも「切削・打ち抜きくず」が多かった。しかし6月は「切削・打ち抜きくず」も1.4万t増加しているが「その他くず」が3.6万tから13.9万tに約4倍増した。「その他くず」のドルベースの平均単価は5月の101ドル/tから6月は116ドル/tであり、1,000元前後で国内流通している軽量くず（おそらく日本の「雑品」解体後の鉄くず）と推察される。116ドルに輸出関税40%を乗じ、フレートを加えても6月時点の関東鉄源入札価格H2 25,500円/tには充分競合できたと推察する。一方切削・打ち抜きくずの平均単価は131ドル/tであり、前月より11ドル下げたがその他くずとは15ドル/t差であることから、鋼ダライ粉よりも「新断」が輸出されていると類推される。

	単位ドル/t	
	切削・打ち抜きくず	その他くず
17.4	147	123
5	142	101
6	131	116

(3) 輸出向先

著増したその他くずの向先を分析すると、向先数は5月の13カ国から6月は17カ国へ増加した。20万tのうち台湾に6.9万t(34.5%)、次いで香港1.6万t、韓国1.3万t、インドネシア0.9万t、タイ0.9万t等であり、上位5カ国で60%弱を占める。日本は第6位6,900t(単価193ドル/t)である。次いでマレーシア5,090t、ベトナム4,840tであり、インドへ3,500t(137ドル/t)入着している点が、日本の新市場として目されている輸出先だけに注目される。1位台湾の単価は90ドル/tと6月の輸出相手国中最低価格であり、これこそが「雑品」由来の低グレードスクラップと類推される。日本の6,900tは193ドル/tであり、韓国の202ドル/tと同様に中国国内では中位くず(3段階グレードのうち真ん中。統廃と呼ばれる)価格に匹敵している。「雑品」由来でないとすれば国内くずが輸出に出てきた新しい展開と認識せざるを得ない。香港、シンガポール、ベトナム、マレーシア、インドネシア、タイ、インド等は単価から類推して軽量くず(おそらく「雑品」由来くず)と推察される。

5月、6月のその他くず国別輸出力、単価

その他くず輸出先と単価			単位トン、ドル/t		
	5月	単価	6月	単価	増減
日本			6,876	193	6,876
香港	10,770	121	16,212	102	5,442
韓国	2,142	198	12,513	202	10,371
台湾	18,580	73	69,043	90	50,463
シンガポール			472	101	472
ベトナム	1,466	117	4,841	115	3,375
マレーシア	301	119	5,090	139	4,789
インドネシア	1,976	112	9,483	120	7,507
タイ	26	160	9,320	137	9,294
ミャンマー			5	262	5
インド	781	118	3,521	137	2,740
パキスタン			456	168	456
バングラデシュ	274	116	298	153	24
オマーン			937	142	937
計	36,316	101	139,067	116	102,751

備考:5月の日本向は海関統計では0になっている(NO41で分析)。

2. 香港の輸出入

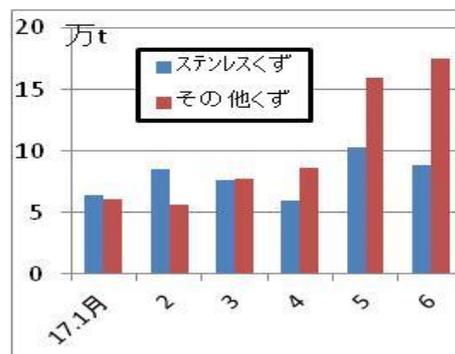
香港は海関統計上は外側にあり、他国と同様の扱いになっている。5月の輸入量は3.1万t、輸出は2.6万tだったが、6月は輸入は4万t(うち中国は2.6万t)に増加し、輸出は2.6万tと変わらなかった。1月～4月の輸入ソース国のうち中国分は、

1/3以下だったが、5月、6月は中国ソースが50%から65%へ増加してきており、輸入の増加は中国ソースの増加と言える。一方、輸出は豪州や欧州などの先進国から「新断」を輸入し、中国へ移送するケースが主体だったが、5月以降は他国へ「その他くず」を輸出するケースが多くなってきている。6月は輸出2.6万tのうち1.2万tが中国向け、1.4万tが他国向けだった。輸出品目は「ステンレスくず」と「その他くず」の2品目のみであり両者ともに6万t～8万tで推移してきたが、ステンレス屑輸出は固定的に対して4月より「その他くず」の輸出が増加してきている（なお、前号で取り上げた香港の輸出入について、輸出量の集計に一部間違いがあり、本号で修正した）。

香港の鉄スクラップ輸出入					
	単位トン				
	輸入	ウチ中国	輸出	ウチ中国	他国へ輸出
17.1月	16,648	1,442	12,626	7,414	5,212
2	9,399	905	14,115	10,477	3,638
3	21,597	2,424	15,417	12,037	3,380
4	21,698	7,396	14,588	10,129	4,459
5	31,318	15,237	26,174	13,281	12,893
6	40,834	26,451	26,407	11,945	14,462

データ: 香港スクラップ輸出入(日本鉄鋼連盟)

香港の品種別スクラップ輸出量				万t
	ステンレスくず	その他くず	輸出計	
17.1月	6.4	6.1	12.6	
2	8.5	5.6	14.1	
3	7.6	7.8	15.4	
4	6	8.6	14.6	
5	10.3	15.9	26.2	
6	8.9	17.5	26.4	



香港の国別品種別輸入										単位トン、ドル/t	
	6月										計
	鉄のくず		合金鋼くず		切削・打抜きくず		その他くず				
	72041000	単価	72042100	単価	72042900	単価	72044100	単価	72044900	単価	
中国	3,690	147	418	659	69	180	567	169	21,707	164	26,451
米国	20	200	2	1,026	183	429			3,632	515	3,837
カナダ			18	579					107	693	125
メキシコ									15	4,096	15
日本					47	650			984	501	1,031
韓国			101	1,295					25	769	126
台湾									75	903	75
シンガポール									325	321	325
ベトナム											0
マレーシア									464	599	464
タイ			185	869					144	547	329
インドネシア									58	502	58
フィリピン									20	769	20
マカオ					12	1,004			6,686	171	6,698
ラオス											0
豪州									339	569	339
ベルギー									62	724	62
フランス									153	688	153
ドイツ									23	864	23
スウェーデン									129	530	129
イギリス			52	404					36	1,142	88
スペイン									288	638	288
イタリア									171	327	171
ペルー									27	769	27
計	3,710		776		311		567		35,470		40,834

香港の国別輸出品				単位トン、ドル/t	
6月					
合金鋼くず			その他くず		
ステンレスのもの					
72042100		単価	72044900		単価
中国	8,894	587	3,051	492	11,945
台湾			7,990	203	7,990
韓国					0
米国			37	415	37
カナダ					0
日本			44	1,282	44
シンガポール					0
ベトナム					0
マレーシア			145	256	145
インドネシア			4,687	260	4,687
タイ			586	255	586
フィリピン			38	381	38
ラオス					0
豪州					0
インド			504	256	504
パキスタン			133	561	133
バングラデシュ	0		298	246	298
計	8,894		17,513		26,407

3. 6月の日本、中国、香港のスクラップ輸出入バランス

(1) 6月及び17年1-6月の日本のスクラップ輸出

日本の通関統計による鉄スクラップ輸出量は、67.6万tであり前年同月の85.7万tに対して21%減少した。16年は史上第2位の870万tを世界に輸出したが、17年に入り、前年を下回るペースで推移している。17年1-6月は約400万tであり、このペースで進めば17年計は800万t程度と予想される。向先別では韓国向けが1-4月までの堅調な増加が寄与して全体の約50%を占める201万t（年換算400万t）となったが、5月は前年同月比2.4%増となり、6月はついに12%マイナスとなっていることから下期は低減が予想される。後述する中国のビレットやスクラップの入着動向が日本ソースを抑制する可能性がある。一方、中国向けは「雑品くず」が主体であり、環境規制面で今後減退していくと見込まれる。

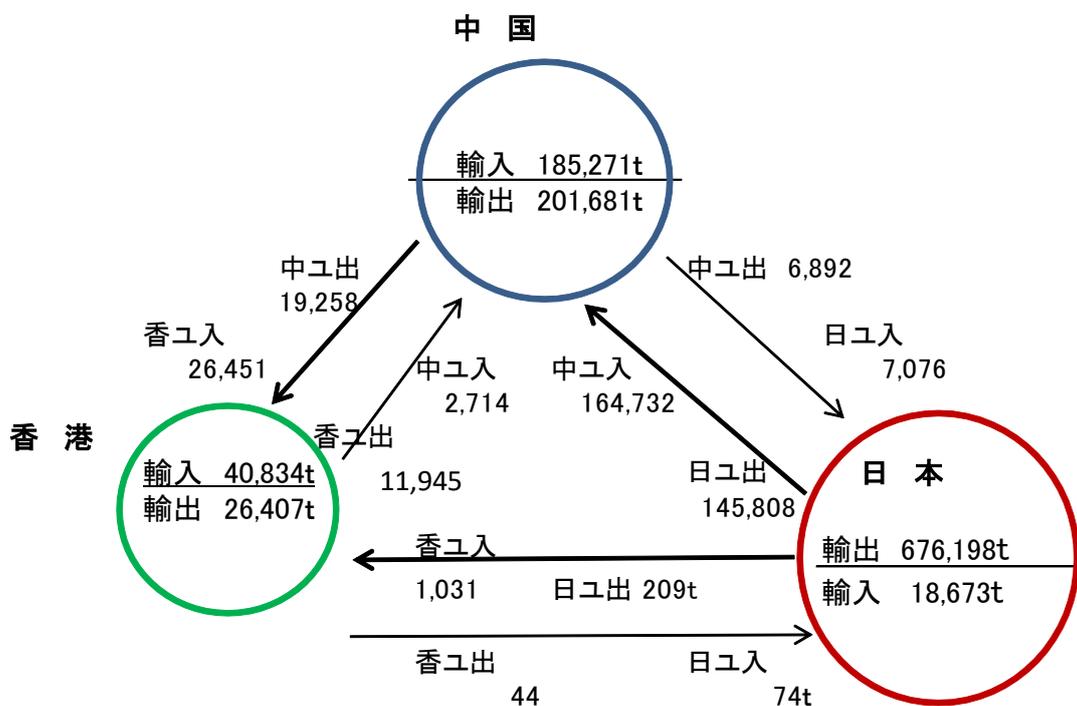
ベトナムは16年に韓国に次ぐ第2のマーケットに飛躍したが、17年2月以降前年を下回り1-6月64万tは年換算130万tに及ばない。他の遠隔地も16年を上回る元気がなく、結局、韓国市場に助けられた17年上期だった。

関東鉄源入札価格の16年平均約20,700円/tは、17年1-7月は27,160円/tに31%上昇しているが、輸出量は870万tから800万tを切る状態で推移しようとしており、価格upが市場に受け入れられていない状態と分析される。



(2) 3国間の6月の輸出入バランス

日本から中国への輸出货量 145,808 t に対して中国の輸入量は 164,732 t である。また、中国の日本向輸出货量 6,892 t は日本の中国からの輸入量 7,076 t とほぼ整合した。一方中国から香港への輸出货量 19,258 t に対する香港の中国からの輸入量は 26,451 t、中国の香港からの輸入量 2,714 t に対する香港の中国向け輸出货量は 11,945 t であり、中国、香港間の通関上のやり取りは輸出入ともに整合していない。日本、香港間は量は少ないが、日本から香港への輸出货量 209 t に対して香港の輸入は 1,031 t となっており、輸入 74 t に対して香港の輸出 44 t となり、中国、香港間と同様に不整合である。中国のスクラップ輸入量を数値として把握する場合、日本の中国からの通関輸入量 7,076 t に香港分 74 t を加えた 7,150 t とすべきか課題を残している。



日本の6月入着 7,076 t を税関地域別に整理すると、試験的な購入のみならず、すでに通常操業使用として動き出している鉄鋼メーカーがあると推考される。

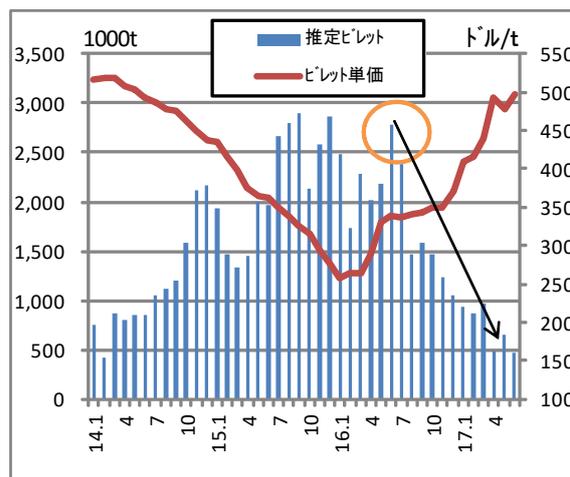
10年後は更に中国や韓国の存在が顕在化しているだろう。今はまさに日本は需給を取巻く環境が大きく変化しようとしているのではないだろうか？ 将来を見据えた意識改革と事業運営が供給側に求められている。

						単位トン	
関東		関西		中国	九州		全国計
横浜	102	大阪	9	広島	20	戸畑	3,909
木更津	1,424	堺	1,543	徳山	32		
東京	37						
小計	1,563		1,552		52		3,909
							7,076

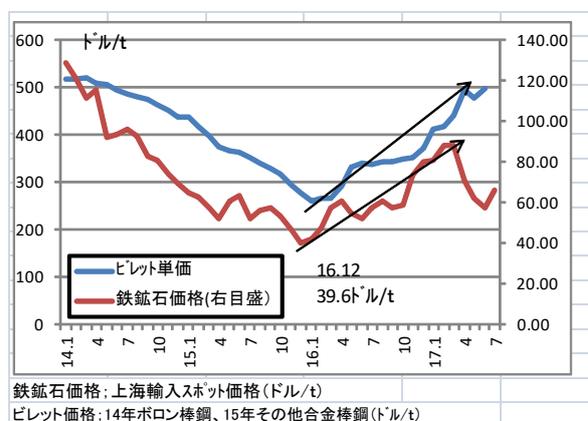
4. 6月の中国ビレット輸出（推定）

ビレットの輸出関税は25%から20%に低減されているが、増値税還付を受けるためクロム等の合金元素を添加して「その他の合金鋼棒鋼＝スクウェアバー」として通関する動きが14年央より始まり、その後低価格な鉄鉱石コストに乗じて拡大した。15年は約2,600万tが輸出されたと推計される。この間、競合するスクラップ流通を抑制し相場にも影響を与え続けたが、16年6月の280万t/月をピークに減少に転じ、価格の上昇と逆相関するかのようになり17年6月は48万tに低下している。月間48万tは増加に転じる前の14年初のレベルである。

この復活は原料である鉄鉱石価格が50ドル/tを切って40ドル/t台とならないかぎり起こり得ないであろう。また、地条鋼廃止にともない、大手高炉メーカーの鉄筋棒鋼国内向け代替生産増が起きている（余剰ビレット量が縮小している）ことも背景にあると推察する。



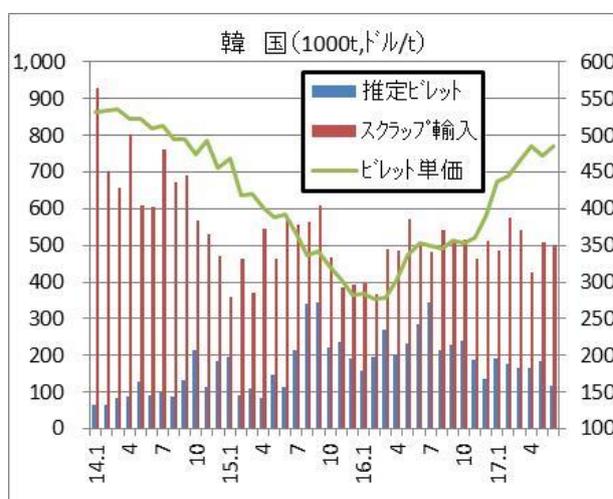
データ：中国海関統計より作成。ビレット単価は72283090の計。



鉄鉱石価格：上海輸入スポット価格(ドル/t)
ビレット価格：14年ボロン棒鋼、15年その他合金棒鋼(ドル/t)

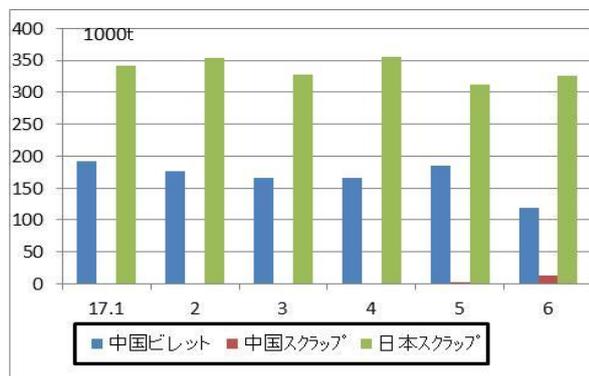
5. 韓国の状況

16年の粗鋼生産は高炉改修等があり、転炉鋼減、電炉鋼堅調で推移した。続く17年上期の転炉鋼は鋼板類の輸出不調で前年並み、電炉は堅調持続ながら下期は建設需要不振が見込まれ、トータルで前年を下回る見通しとなっている。その結果、スクラップ輸入量は16年585万tに対して17年は減速する見込み（韓国鉄鋼協会）。こうしたなか、中国ビレットの入着は16年7月の34.4万tをピークに減少し17年6月は11.9万tとピーク比1/3に縮小した。代わって中国の鉄スクラップが入着しており、5月のその他くず2,142トンが6月は12,513トンに拡大している。一方、日



本の韓国向け輸出は6月の輸出量 32.5万t (韓国の日本からの輸入量 35万t) であり、今のところ変化が現われていないが、今後の動向が注目される。

	韓国向け輸出量			単位1000t
	中国ビレット	中国スクラップ	日本スクラップ	
17.1	192	0	341	
2	176	0	354	
3	165	0	327	
4	165	0	355	
5	186	2.1	312	
6	119	12.5	325	



6. ベトナムの輸出入

中国ビレットは 16 年 3 月に発令したセーフガードにより減退し、17 年は 2 万 t 前後で推移している。代わって鉄スクラップの輸入が復活し、35 万 t~40 万 t/月のレベルで推移している。インフラ関連の需要は堅調であり生産は落ちていない。17 年 1-6 月の粗鋼は 470 万 t (WSA 発表) となり前年同期の 235.5 万 t を倍増した。年間 1,000 万 t 達成も見えてきた。



にも関わらず日本の 17 年 1-6 月ベトナム向スクラップ輸出量は 64 万 t に過ぎず、前年同期の 120 万 t をほぼ半減した。その他くずの単価をみると 16 年 1-6 月平均 19,700 円/t に対して 17 年 1-6 月は 28,740 円/t となり約 46% up となっている。第 2 の市場として重要な位置にあるだけによく分析しておく必要があるようだ。一方、中国のベトナム向鉄スクラップ輸出は 17 年 4 月より動きはじめ 4 月 3.6 千 t、5 月 5.6 千 t、6 月は 2 万 t に増大してきている。

調査レポート NO 42

「目が離せない中国のスクラップ輸出」(その 2)

発行 2017 年 8 月 3 日 (水)

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 (株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一

<http://srr.air-nifty.com/home/> e-mail s.r.r@cpost.plala.or.jp